

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際科学会議
	英	The International Council for Science (略 称 ICSU)
	団体 HP (URL)	http://www.icsu.org (日本学術会議が加盟していることの記載 <u>有</u> ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		ICSU は、その Strategic Plan に沿って活動を推進している。Strategic Plan II (2012~2017) では ICSU の活動が以下の 4 項目に区分されている： 区分 1 Planning and coordinating research 区分 2 Science for policy activities 区分 3 Strengthening the Universality of Science 区分 4 Structure-Function issues 各々の区分における主なトピックスを以下に記載する： 区分 1： 2013 年にリオデジャネイロにて行われた国連持続可能な開発会議 (リオ+20) の後には、様々な国際的地球環境研究のための枠組みを網羅的に統合させる”フューチャー・アース (FE)” (統合的地球環境変化研究プログラム) という新しい枠組みを主導的に推進する一組織となった。 - 災害リスク統合研究計画 (IRDR) を推進しており、2014 年に中国において災害リスクに関する第 2 回国際会議を開催した。2015 年 3 月に仙台で行われた第 3 回国連防災会議にも、科学者コミュニティーを代表するメンバーとして参加した。 区分 2： - 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム (IPBES) においても、ステークホルダーとして専門家の推薦母体の一つとなっている。 2015 年秋にフランスで行われた国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議 (COP21) にあたり、ICSU と FE は気象科学に関連する国際会議を開催した。 区分 3： 2015 年にブラジルにおいて開催された第 4 回国際研究公正会議 (World Conference of Research Integrity) では、ICSU-CFRS (科学研究における自由と責任に関する委員会) が大きな役割を果たした。 - 日本の国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) と ICSU で運営している「世界科学データシステム (WDS) 国際プログラムオフィス (IPO)」による国際的データ保全、管理、ならびに世界規模での科学データの研究データ等共有の活動が予定通りの目標を達成し、今後も活動を継続することとなった。 区分 4：

様式第2 (第12条関係)

	- ICSU は様々な国際組織（ユネスコ、UNISDR(国連国際防災戦略事務局)、WMO（世界気象機関）、UNU(国連大学)、ISSC(国際社会科学協議会)、UNEP(国連環境計画)、IOC(ユネスコ政府間海洋学委員会)、IAMP(InterAcademy Medical Panel)等との連携により、広い視野から科学研究を推進する役割を担っている（以下、一例）： - Future Earth: ICSU、ISSC、UNU、UNEP 等 - IRDR（災害リスク統合研究計画）：ICSU、ISSC、UNISDR - WCRP（気候変動国際共同研究計画）：ICSU、WMO、IOC - Urban Heal and Wellbeing in the Changing Urban Environment（都市環境の変化と健康科学者委員会）：ICSU、IAMP、UNU
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について	ICSU は、国を代表する多数のアカデミーと、学術分野毎の主要な国際組織をそれぞれメンバーとして網羅し、世界の学術をリードする組織であり、更に国連関連その他の国際組織との連携の上、地球規模での対応が必要とされる課題に取り組んでいる。一例では、国際極年（IPY）、統合防災研究計画（IRDR）、科学技術委員会（CODATA）、生態系の変化と人類の福祉（Wellbeing）、都市の健康と福祉、気候変動国際共同研究計画（WCRP）を進めており、特に、地球圏・生物圏国際共同研究計画（IGBP）や生物多様性科学国際共同計画（DIVERSITAS）は、現在ではフューチャー・アース（FE）の活動の一部に統合されており、地球環境・生物環境に関連する問題には、より強力な体制を持って対応にあたっている。 また、ICSU の活動にあたっては、その計画とレビューを担う委員会（CSPR:科学計画評価委員会）を設置していると共に、科学者の自由と責任について監視する委員会（CFRS:科学研究における自由と責任に関する委員会）を設置し、より広い観点から世界の学術の方向性を議論し、推進している。 一方で、地域事務所（アジア太平洋、アフリカ、及びラテンアメリカ）による取組にも力を入れており、特にアジア太平洋地域事務所では、アジア太平洋地域におけるフューチャー・アース活動の推進、当該地域における防災・減災についての啓蒙活動の実施、地域における緑辺海に関連する問題への対応として SIMSEA プロジェクトを発足させ、活動を推進させている。 ICSU では、上記に加え、若手、女性、発展途上国の研究者が参画する研究も推進している。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて	黒田玲子会員（当時）は、ICSU 副会長（2009～2011）として、ナショナルメンバーの荷重投票制度を確立し、ファイナンスに関わる案件については、分担金の額によって投票権の重さが異なる方式を導入することに大きく貢献した。 他にも、以下のメンバーが ICSU の重要ポストで活躍している： 【ICSU 理事（Ordinary Member）】 - 巽 和行連携会員：（2014～2016） - ICSU の運営に係る内容の審議に参加。会長、副会長の代理として関連会議やイベントにも参加。 【ICSU 三大政策委員会（policy committees）】 - 春日文子連携会員：CSPR（Committee on Scientific Planning and

様式第 2 (第12条関係)

	Review：科学評価計画委員会）のメンバー（2012～2014+2015～2017） - ICSU が展開している科学プログラム等についての企画・立案に加え、進捗状況の把握、結果のレビュー等を行う。 • 井野瀬久美恵副会長（23 期）：CFRS（Committee on Freedom and Responsibility in the conduct of Science：科学研究における自由と責任に関する委員会）のメンバー（2014～2016） - 科学者の行動規範、科学者の人権問題、ダイバーシティ問題等、科学者としての根幹の問題についての審議を行うと共に、科学者のあるべき姿についての啓蒙活動を担う。 【ICSU 地域事務所】 • 山形俊男連携会員：ICSU アジア太平洋地域委員会のメンバー（2011～2013+2014～2016） - アジア太平洋の地域に根差した問題を審議する場を提供し、地域の科学者コミュニティ内の連携強化や、地域特有な問題への対応能力向上の一助となっている。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への効果やメリットについて	ICSU は、世界中の国(122 か国)及びほぼ全ての分野別連合（31 分野）の科学組織からなる全世界の科学者を代表する団体であり、世界の科学研究をリードしているばかりでなく、世界が一丸となって取り組むべき課題に対して、科学者間での連携のみならず、その他の国際組織や科学政策、ファンディング等の面でも関与すべきステークホルダーを巻き込んだ形の組織をリードしながらその対応に積極的な姿勢で臨んでいる。 具体的には下記のとおり、多くの組織において日本学術会議から推薦した専門家や代表者が活躍している： • フューチャー・アース（FE）： - 安成哲三：連携会員（フューチャー・アース委員会科学者委員会メンバー） • 統合防災研究計画（IRDR）： - 林 春男：連携会員（IRDR 科学者委員会メンバー） • 都市環境の変化と健康科学者委員会（Urban Heal and Wellbeing in the Changing Urban Environment）： - 花木啓祐：第 3 部会員（副会長）（Urban Health and Wellbeing 科学者委員会メンバー） • 世界科学データシステム（WDS） - 渡邊 堯：特任連携会員（22 期）（Senior Advisor） このため、日本を代表して日本学術会議が ICSU に加盟することで、科学に関する取り決めや政策提言などさまざまな国際的取組に直接関与することができるばかりでなく、先進国の科学者として関係するプロジェクト等において中心的な役割を果たすこともできる。 また、ICSU という巨大な学術組織において重要ポストを確保することで、意思決定や専門的アドバイスにも関わり、これらを通じて、日本の科学者が世界で活躍しやすい環境を整備することに貢献する。現在、日本学術会議から推薦したメンバーが ICSU の組織内の重要ポストに就い

様式第2 (第12条関係)

	ているケースは以下のとおりである（詳細は前項目を参照のこと）： - 巽 和行連携会員：ICSU 理事（Ordinary Member） - 春日文字子連携会員：CSPR（Committee on Scientific Planning and Review：科学評価計画委員会）のメンバー - 井野瀬久美恵副会長（23期）：CFRS（Committee on Freedom and Responsibility in the conduct of Science：科学研究における自由と責任に関する委員会）のメンバー - 山形俊男連携会員：ICSU アジア太平洋地域委員会のメンバー ICSU が展開する活動に日本の科学者・専門家を関与させること、及び ICSU の組織内での重要ポストに日本学術会議からのメンバーを就任させることで、社会への応用面においても日本の科学技術の適用範囲を世界的に広げ、その信頼を高めることにつながり、そのことを通じて日本の科学技術のさらなる発展を促すものである。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）	特に、女性研究者、科学者の倫理に関しては、ICSU の三大ポリシー委員会の一つである CFRS（上述）のメンバーを日本学術会議から輩出していることもあり、日本国内でのこの分野の問題に関わる審議の概要等を共有し、意見交換することが可能となると共に、海外での案件についての状況共有も可能になっている。 また、若手科学者に関しては、ICSU も近年力を入れ始めており、2014 年の総会時にも若手科学者との審議をアジェンダの一つとして盛り込んだ。日本学術会議では、第 21 期から若手アカデミー委員会を発足させて若手アカデミーの組織化についての審議を開始しており、第 23 期の立ち上げと共に「若手アカデミー」を発足させている。そのため、世界の若手アカデミーや若手科学者との交流をはかる場の一つとして ICSU を利用することができる。

2 今後の予定について（内規第 11 条 活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定について（招致等の予定も含め）	さまざまな機会を捉え、誘致に努める予定である。
日本人の役員立候補等の予定について	ICSU アジア太平洋地域委員会の委員を務める山形俊男連携会員の任期が 2016 年中に任期満了となるため（2011～2013 年、2014～2016 年の二期委員を務める）、新しい候補者を日本学術会議から推薦予定（2016 年 8 月中）
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	2017 年秋にヨルダン（アンマン）で開催予定の World Science Forum 2017 におけるパラレル・セッションについて、効果的なテーマを検討しながら ICSU 含む関連組織と共同で開催することを呼びかけることを検討中。

3 国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条 活動報告）

総会・理事	総会開催状況	2014 年（開催地：ニュージーランド）、2008 年（開催地：モザンビーク）、2011 年（開催地：イタリア）、2005 年（開催地：中国）
-------	--------	---

様式第2 (第12条関係)

会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)	理事会・役員会等開催状況	2015年(開催地:南アフリカ)、2011年(開催地:イタリア)、 2014年(開催地:フランス)、2011年(開催地:キューバ)、 2014年(開催地:ニュージーランド)、2010年(開催地:フランス)、 2013年(開催地:フランス)、2009年(開催地:フランス)、 2012年(開催地:フランス)、2008年(開催地:モザンビーク)			
	各種委員会開催状況	2015年(開催地:フランス)、2012年(開催地:フランス)、 2014年(開催地:中国)、2011年(開催地:イタリア)、 2014年(開催地:フランス)、2011年(開催地:スイス)、 2013年(開催地:フランス)、2010年(開催地:コロンビア)、 2013年(開催地:カナダ)、2010年(開催地:シンガポール)			
	研究集会・会議等開催状況	① 第31回総会 平成26年8月29日～9月4日(ニュージーランド、オークランド) ② 第29回CSPR 平成27年4月(フランス、パリ) ③ 第30回CSPR 平成27年10月(フランス、パリ) ④ 第19回CFRS 平成27年10月(フランス、パリ) ⑤ 第115回執行委員会 平成27年11月(フランス、パリ)			
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		上記① 第31回総会 平成26年8月29日～9月4日(ニュージーランド、オークランド) 10名:うち代表派遣:大西会長、春日副会長(当時)、異第三部会員(当時) 上記② 第29回CSPR 平成27年4月(フランス、パリ) 1名:うち代表派遣:春日連携会員 上記③ 第30回CSPR 平成27年10月(フランス、パリ) 1名:うち代表派遣:春日連携会員 上記④ 第19回CFRS 平成27年10月(フランス、パリ) 1名:うち代表派遣:井野瀬副会長 上記⑤ 第115回執行委員会 平成27年11月(フランス、パリ) 1名:うち代表派遣:異連携会員			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況(過去5年)		役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
		理事	2014～現在	異 和行	(23期) 会員・連携
		CSPR 委員	2012～2015	春日 文子	(23期) 会員・連携
		RCAP 委員	2011～2013	山形 俊男	(23期) 会員・連携
		FESC 委員	2013～2015	安成 哲三	(23期) 会員・連携
		UHWB 委員	2012～2015	花木 啓祐	(23期) 会員・連携
		IRDR SC 委員	2015～2018	林 春男	(22,23期) 会員・連携
		WDS SC 委員	2015～2018	家森 俊彦	(21期) 会員・連携 特任連携
出版物	1 定期的(年1回) 主な出版物 “Annual Report”、(電子ニュースレター) ”Insight” (年4回)				
	2 不定期() 主な出版物名 “Scientific Relations Between Academia and				

様式第 2 (第12条関係)

	Industry: Building on a New Era of Interactions for the Benefit of Society”
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://www.icsu.org/publications/annual-reports/)	

様式第2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	国際委員会 G サイエンス及び ICSU 等分科会 ICSU 対応小分科会
	委員長名	花木 啓祐 (第三部会員、国際担当副会長)
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 平成 27 年 4 月 7 日 (火) 第 23 期第 1 回 議事次第： 1：役員の決定について 2：ICSU の運営にかかわる動向 3：その他
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である ☒ 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://www.icsu.org/publications/statutes-policies/statutes-procedure/)	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) ☒ 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.icsu.org/publications/statutes-policies/statutes-procedure/)	
	下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印) ☒ ア 個々の学術の専門分野における統一のかつ世界的な組織を有するもの ☒ イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一のかつ世界的な組織を有するもの ☒ ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの	
	10 ヶ国を超える各国代表会員が加入している ☒ 1. 該当する 2. 該当しない	
	加入国数及び	(140 ヶ国)

様式第 2 (第12条関係)

	主要な各国代表会 表会員を 10 記載	・ 各国代表会員名／国名 1. Gordon McBean／カナダ 2. Daya Reddy／南アフリカ 3. Yuan-Tseh Lee／台湾 4. Jinghai Li／中国 5. Michael Clegg／アメリカ 6. David Black／オーストラリア 7. Barbara Erasmus／フランス 8. Orhan Altan／トルコ 9. John Ball／イギリス 10. Raghavendra Gadagkar／インド
--	------------------------------------	---